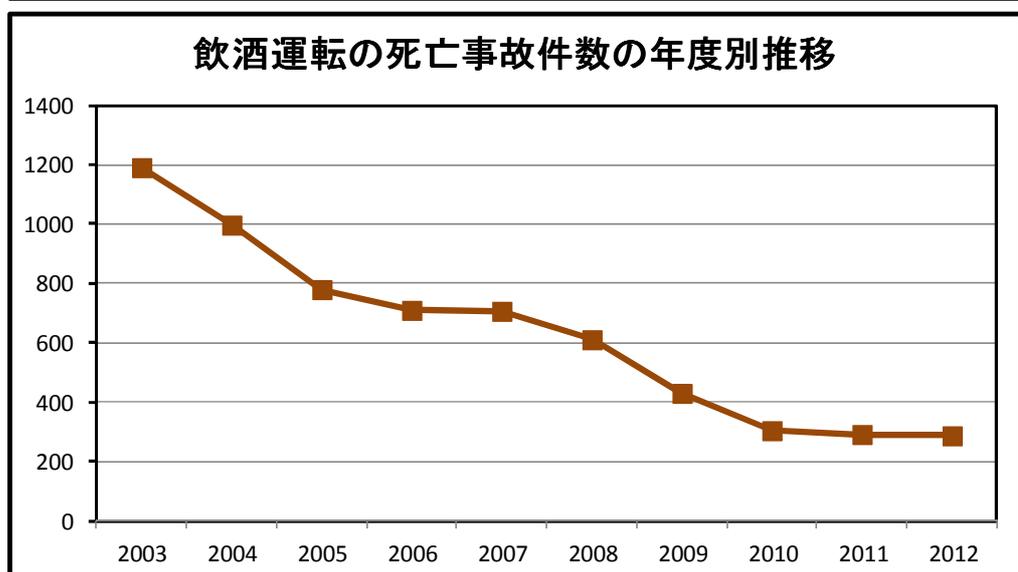
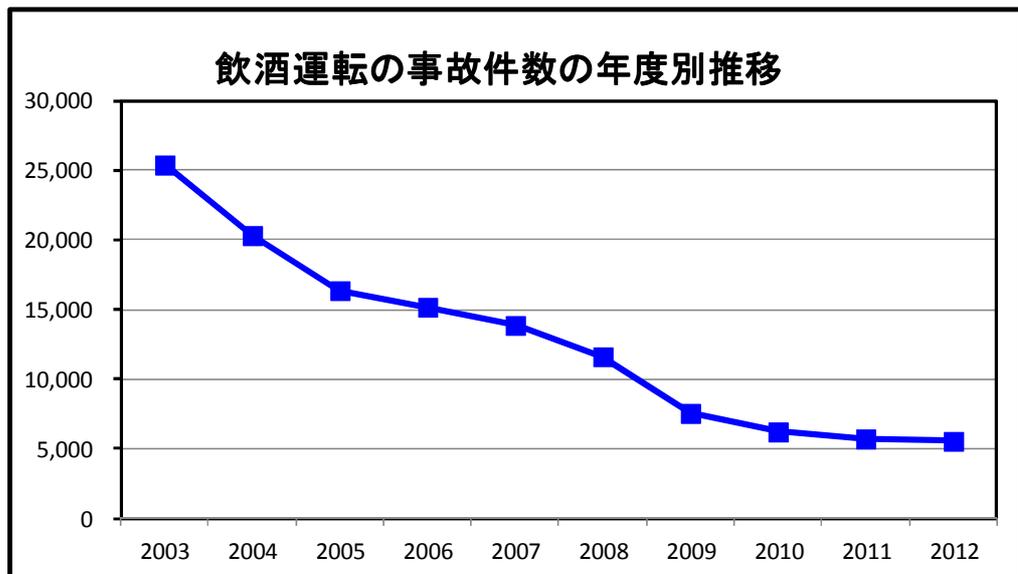




飲酒運転は減少していると聞いていますが、ここ10年間の飲酒運転事故件数と死亡事故件数を教えてください。



以下のとおりです。ここ10年、飲酒運転件数は減っていますが、死亡事故などの重大事故は年間280件発生しています。死亡事故全体の約6.6%を占めています。飲酒運転をすると危険認知力、危険判断力、運転能力のすべてが低下します。その結果、運転者はもちろん被害者も重大な事故になります。まさしく「飲んだら乗るな。乗るなら飲むな」です。





飲酒運転の検問では息をはいてアルコール濃度を測定しますが、一般的にいわれる血液中のアルコール濃度との関連はどのようなのですか？



警察の飲酒運転の検問で、運転者の血中濃度を調べていたら時間がかかってしまいます。それで、いわゆる呼気中のアルコール濃度を測定します。飲酒運転となる呼気中のアルコール濃度を血中のアルコール濃度に置き換えると以下の表のようになります。

呼気1リットル中の アルコール濃度	0.25mg以上	血液1リットル中の アルコール濃度	0.05%以上
	0.15mg以上		0.03%以上



血中アルコール濃度を計算する方法を教えてください。



血中アルコール濃度の計算式は以下です。

$$\text{血中アルコール濃度 (\%)} = \{ \text{飲酒量 (ml)} \times \text{アルコール度数 (\%)} \} \div \{ 833 \times \text{体重 (kg)} \} \times 100$$

●血中アルコール濃度計算事例

ワイン 1杯 120ml を 2杯 飲酒 アルコール度数 12% 体重 52kg

血中アルコール濃度

$$= \{ (120\text{ml} \times 2 \times 12\%) \div (833 \times 52\text{kg}) \} \times 100 = 0.066\%$$

呼気 1 リットル中のアルコール濃度 0.25mg以上 に該当します



呼気1リットル中のアルコール濃度0.25mg以上に該当すると罰則点数は何点ですか?



以下が罰則と違反点数の一覧表です。

●運転者の酒酔い運転に対する罰則と違反点数	
酒酔い運転罰則	5年以下の懲役又は100万円以下の罰金
酒酔い運転違反点数	35点
酒気帯び運転罰則	3年以下の懲役又は50万円以下の罰金
酒気帯び運転違反点数	呼気1リットル中のアルコール濃度 0.25mg以上…25点
	呼気1リットル中のアルコール濃度 0.15mg以上0.25mg未満…13点
●運転者以外の周囲者に対する罰則	
運転者が酒酔い運転	5年以下の懲役又は100万円以下の罰金
運転者が酒気帯び運転	3年以下の懲役又は50万円以下の罰金
●酒類の提供・車両の同乗者に対する罰則	
運転者が酒酔い運転	3年以下の懲役又は50万円以下の罰金
運転者が酒気帯び運転	2年以下の懲役又は30万円以下の罰金

- ・酒酔い運転の行政処分は免許取り消し
- ・酒気帯び運転の行政処分は違反点数25点…免許取り消し。13点…免許停止。
- ・その他に、自転車も酒酔い運転の場合は罰則が適用されますから気をつけてください。

繰り返しますが「飲んだら乗るな。乗るなら飲むな」です。



お酒を飲んだあとにどのくらいの時間がたつとアルコールは体内からなくなるのですか？



アルコールが体内からなくなる時間を計算するには、

①お酒の種類、アルコール度数によってアルコール量を計算します。

②摂取したアルコールの消失時間を計算します。

この2段階でアルコールが体内からなくなる時間を計算できます。

ただし、誤解しないでください。これはお酒を飲んで何時間後に運転しても大丈夫だということではありません。一般的な計算式であって人によって異なる時間はことなります。

●アルコール量の計算式

純アルコール量 (g)

= 飲酒量 (ml) × アルコール度数 (%) × アルコールの比重 0.8

●アルコール量の事例

ワイン 1 杯 120ml を 2 杯 飲酒 アルコール度数 12%

= 120ml × 2 × 12% × 0.8 = 23.04 g

●アルコールがなくなるまでの時間計算式

消失時間

= アルコール量 (g) ÷ 5 g (1時間あたりのアルコール分解量)

●アルコールがなくなるまでの時間

消失時間

= 23.04 g ÷ 5 g = 約4時間40分